

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

乳房温存術後の放射線療法オリエンテーション内容の検討

2. 研究責任者(当院)

所属： 画像内視鏡外来

氏名： 神尾 眞由美

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名： なし

代表名： なし

3. 分担研究者

所属： なし

氏名： なし

4. 研究対象者

①2024 年 04 月 01 日～2025 年 02 月 28 日の間に、聖隷佐倉市民病院において、乳房温存術後照射を受けた患者、または受ける患者。

5. 研究の必要性

乳がんは、1996 年から女性の部位別年齢調整罹患率で第 1 位となり 2018 年には 9 万人以上が罹患している。乳がんの治療には、手術（外科治療）、放射線治療、薬物療法（内分泌療法、化学療法（抗がん剤治療）、分子標的治療など）があり、それぞれの治療を単独で行う場合と、複数の治療を組み合わせる場合がある。がんの性質や進行病期、身体の状態、年齢、合併する他の病気の有無などに加え、患者の希望を考慮しながら治療法を決めていく。その中で乳房温存術を受けた患者は原則として、温存された乳腺組織内に依存するかもしれない乳がん組織を制御するために術後放射線療法が併用されており、その効果が証明されている。上野らは「外来で手術決定時に補助療法の説明を受けていることから、手術の対する不安が強く、補助療法まで考えが至らないことが考えられる。患者の 60%近くが希望しているように正しい知識を得ることができるのは、入院し手術後の比較的安定した時期が効果的だといえる」と述べている。また武田らも「退院オリエンテーション時に放射線治療の説明を行うことは有意義である」と述べられている。当院でのオリエンテーション内容は放射線治療科初診予約時に初診から放射線治療開始までの流れ、放射線療法開始決定時に日常生活での治療中の注意点、放射線療法終了前に治療後の生活上の注意点と晩期有害事象についての説明を行っている。このため当院における患者が放射線療法の基本的な放射線療法に関する知識や必要性および副作用や注意点について、どの時期に行い、どのような内容を希望しているか実態を調査し、患者のニーズに沿った放射線療法オリエンテーションを行いたいと考える。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測（*アンケート調査の場合は不要）

個人への影響、医学上の貢献はなし。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号： 043-485-1155

担当者氏名： 神尾 眞由美

対応時間： 09:00～17:00（月～金）

共同研究において専用窓口がある場合

なし